

「お人は宝」

茶の湯からいただいた大切なこと

茶事懐石研究家・鶴の茶寮 亭主
半澤 鶴子氏

「階」(きざはし)

～社会科教育を考える～

2018年 3月号 (No. 36) より

この雑誌の中で、半澤氏の言葉が心に残りましたので、紹介します。

私(石井)は、半澤さんの「学び続ける姿勢」に惹かれました。

40歳を過ぎて、先人が残してくれた畏れ多く偉大な「茶の湯」の文化に惹かれ、学ぶことのよろこび、茶の湯の奥深さへの興味がわいたと言っています。

次のように話しています。

「茶の湯の世界は、厳しく容赦のないところもありますが、私のような欠点の多い人間が自分は良い人間だと錯覚せずに、安心して先人たちの教えを学び続けることができる場所だと思っています。私は、自分の得意とする裏方の料理を引き受け、勉強してきた方々の胸を借りて、叱責もありがたくいただきながら一つ一つ恥をかいて覚えさせていただいてきました。

茶の湯の歴史の流れに身をおけるありがたさを思うと、怒られても恥ずかしくも何ともありません。一冊の本より一人のお人いろいろな方との出会いを通じて経験を積むことが、私にとって何よりの学びとなっています。」



「お人は宝」

今を生きる先生方や子どもたちには、お一人お一人が優しくあってほしいと思います。組織の制約の中で生きてると疲れもするし、疲れれば怒りっぽくもなります。

お人に優しいということは、お人への優しさを優先することで、自分の未熟さも自ずと助けられるように思います。

未熟さを自覚して自分を高みに置かず、自身を開放していけば多くを学び、学びへの感謝が生まれます。いろいろな方がその欠点を補って助けてくださるのです。

それが宝なのです。本当にお人は宝です。だからお人を宝にできるような教育の現場であってほしいと思います。

宝は、普通の何気ない日常の優しさからしか生まれてこないのです。

(半澤 鶴子)



学校は、常に人と接する仕事です。

日々、いろいろなことがあり、忙しいことでしょう。そのような中でも、子どもに優しく接する気持ちを忘れないでいただきたいと思います。

先生方が、心のゆとりを持てるよう、日々の生活を見直してください。

